

なわて民報

No.1840
2013. 10. 11

[発行]
日本共産党
四條畷市委員会
中野本町4-24
TEL/FAX
072-879-5016
四條畷市議会議員
岸田あつこ



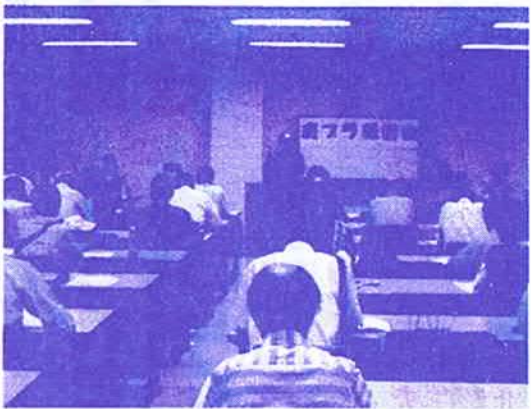
清滝29-1 A-201
TEL/FAX
072-803-0303
e-mail: fkbzy500@cwk.zaq.ne.jp

「寝屋川で公調委の報告会」

寝屋川・廃プラ処理施設からの

排ガスによる住民の健康被害はまだ続く

寝屋川の「廃プラ処理による公害から健康と環境を守る会（通称・守る会）」主催による公害等調整委員会（略称・公調委）の調査についての報告会が9月28日、寝屋川市民会館で行われました。



公調委は今年2月まで調査と審理を行い、調査報告書が3名の委員の意見書とともに公表されましたが、一部の専門委員から「化学物質は住宅地に到達しておらず、住民が感じているニオイは施設からのものとは考えられない」と結論を出しました。

しかし、28日の集会では、参加された地元の方々がいちおうに「においと被害は全く変わらない。家を離れば症状が治まり、帰宅すれば症状が出る。これが現実です」と切々と訴えました。

もう一つ明らかになったことは、いわゆるシックハウス症候群の原因ホルムアルデヒドが東大名誉教授の柳沢氏・神戸商船大学名誉教授の西川氏の調査で、通常空気の10倍以上の濃度で検出されていること。その調査を公調委検査は本来30分毎にしなければならぬのを、1日平均でするなどの矛盾に説明がないことなども指摘されています。

本紙でも何度かお知らせしましたが、北河内4市で運営する廃プラ施設にかかわる費用を四條畷市だけで毎年約1億円も投じて、廃プラスチックゴミを処理しています。この4市の施設と、施設前工場（リサイクル・アンド・イコー社）からの排ガスが周辺住民に健康被害を与えていることから、住民たちは10年間に涉って粘り強く裁判闘争をしましたが、高裁では「住民の被害は気のせい」という実情無視の判決が出されました。

しかし、現実には住民の被害はまったく変わっていません。判決では「未知の化学物質はあるが、正体不明だから被害はない」との甚だ常識に反する判決文でした。そこで住民たちは2011年2月『公調委』に調査を依頼したので

気が到達、滞留しやすい条件にあることも両教授の調査で確認されています。このような公調委報告の矛盾点について、住民の方々は「公調委は住民の健康被害を直視して下さい」と再調査を求めています。

今回の公調委は12月10日です。日本共産党も住民とともにきれいな空気を取り戻すためたかいます。

*接地逆転層＝通常、空気中の温度は上空ほど低くなるが、夜間暗れていると地面が冷え、空気も冷やされる。そのため地面からある高さまで上空の空気より下の空気が冷たくなり、空気が滞留する層のこと。（下の写真）



現地付近の写真では右端の煙突の煙は真つ直ぐ上へ上がり、下部の煙が左方向へ地面に沿って流れている。

あべ佳世氏の四條畷市議辞職について

あべ佳世氏は、「一身上の都合」により10月7日付けで四條畷市議会議員を辞職しました。

二〇一一年、多くの皆様のご支援で再選させていただき、二期六年にわたり支えていただきながら、任期途中で辞職せざるをえなくなったことは非常に残念です。期待をよせていただいた市民の皆様にご心よりお詫びいたします。

物心両面で党を支えていただいている党員・後援会員・支持者のみなさまにはたいへんお世話になりました。あらためてお礼を申し上げますとともに、重ねてお詫びを申し上げます。

2013年 10月7日 日本共産党北河内南地区委員会

日本共産党四條畷市委員会

清滝 わいわい懇談会報告

軽度者への介護サービスがなくなるのが
心配など、市民の意見・要望つぎつぎと

日本共産党四條畷東支部と後援会は10月5日、清滝自治会館で「わいわい懇談会」を開催。清滝地区や清滝団地から20名を超える市民が参加しました。



正面右、手を挙げているのが岸田議員、その左が吉井よし子氏

懇談会では、日本共産党が9月10日に行った党創立91周年記念講演のダイジェストDVDを視聴。その後、岸田あつこ議員による9月市議会の報告や、吉井よし子党大阪12区国政対策委員長による日本共産党綱領の話や消費税増税阻止に向けた訴えがありました。

参加者からは、「娘が敦賀に住んでいる。原発が近くにあり、なんとかして欲しいと言われる」、「今の教育の中で、戦後教育がなおざりになっていくことが問題。もっと戦後の日本史を子どもたちに教えるべき」、「来年、介護保険法が改悪されようとしていて、要支援などの軽度の人々が介護サービスを受けられなくなる」と新聞で報道されている。そうなる大変

困る」等々、様々な意見や要望が出されました。こうした声に対し、岸田議員や吉井氏、参加者がそれぞれ意見を出し合い、介護保険のサービスの問題など市政に伝えるべきことは議会でも取り上げていくと岸田議員が発言。参加者からは「楽しかった。もっとこんなつどいを活発に行って、市民の意見を聞いてほしい」と感想がありました。

9月29日、映画「渡されたバトン」大東上映実行委員会主催の映画が大東市のサーティホールで上映され、映画を鑑賞された市民から感想が寄せられたので掲載します。

映画「渡されたバトン」(副題「さよなら原発」)を見て

田原台在住 S・S

これは、1969年 新潟県の小さな町(当時人口約3万人)に、突如持ち上がった原発建設計画に始まり、四半世紀以上に及ぶ原発建設阻止を実現(2003年12月)させた、事実に基づく映画である。これがある家族が賛成から反対に変化していく様を中心に描かれていく。

当初反対運動もあったが、何10億円もの協力金や保証金に群がる個人・団体が計画推進を後押し。そんな中、1979年スリーマイル島の原発事故が発生、反対運動に火が付き、町も人も揺れ動くギクシャクした関係が生まれていく。1986年のチェルノブイリ原発過酷事故を契機に反

対運動は様々な工夫を凝らした取り組みを開始。紆余曲折を繰り返しながら、ついに1996年住民投票を勝ち取り、2003年建設断念を実現させました。

ここ四條畷でも、四條畷町時代(当時人口約1万)の1959年(昭和34年)に研究用原子炉建設の候補地となり、町議会も反対を決議、1500人にも及ぶ大規模な陳情が繰り返され、断念に追い込んだという歴史があります。

原発即時ゼロ実現と住民自治の確かなバトンを引き継いでいかなければと思った映画でした。

わが町発見ウォーキング
田原の里山めぐり



第5回は田原の里山ウォーキングです。里山の保全活動がされている方の案内で、田原地域の里山をめぐります。

10月20日(日)午前11時

田原台 戎(えびす)公園バス停前

2時間半～3時間程度の予定。

*お弁当持参

*雨天中止

コミュニティバス

忍ヶ丘駅 10:17 発

四條畷駅 10:27 発

にご乗車ください

主催:わが町発見ウォーキング実行委員会

お問合せ・申込 岸田あつこ 072-803-0303